

1. 事業構想評価

(1) 事業構想「目標を定量化する指標」の達成状況

目標	メニュー	指標	開始年度	目標年度	達成状況												備考			
					1年目(開始年度)			2年目			3年目			4年目				5年目		
					目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		目標値	実績値	達成率
安定供給体制の整備推進	間伐材生産	間伐材生産経費(円/m ³)の減少率		R2																
	高性能林業機械等の整備	労働生産性(m ³ /人・日)の増加率			11%	57%	518%	12%	39%	325%	13%	20%	154%	-	-	-	-	-	-	
木材利用及び木材産業体制等の整備推進	木材加工流通施設等の整備		地域材利用量(m ³)の増加率	R4																
	木造公共建築物等の整備	木造化(補助率1/2以内)	事業費当たりの木材利用量(m ³ /百万円)	R4																
		木造化(補助率15%以内)																		
		木質化																		
	木質バイオマス利用促進施設の整備	未利用間伐材等活用機材整備	事業費当たりの木質バイオマス利用量(m ³ /百万円)	R4																
		木質バイオマス供給施設整備																		
木質バイオマスエネルギー利用施設整備																				

(注)

- 「達成状況」には、各年の目標値、実績値及び達成率(各年度の実績値/各年度の目標値)を記載すること。
- 報告年度については、要領第6の1に基づくこと。
- 各メニューの達成状況における、目標年度の目標値には下線を引くこと。
- 目標値及び実績値のうち、該当がない年度は、「-」を記入すること。
- 天災又は自己の責に帰さない事由による火災等が理由で、達成率が著しく低いと判断されるメニューについては、本報告における評価対象外とする。
なお、該当するメニューについては、本報告に準じ別途達成状況表を作成することとし、その理由を記載すること。

2 . 全体評価

(1)全体指標の達成状況

目標	メニュー	全体指標	現状値			目標値			目標年度の報告			備考
			数値	単位	年度	数値	単位	年度	実績	達成率 (%)	年度	
森林資源の保護	森林環境保全の推進	森林保全推進員の資質向上のための研修の実施	3	回	R4 (2022)	3	回	R5 (2023)	3	100%	R5 (2023)	R6.8.28地方事務所担当者から聞き取り
	森林資源保護の推進	シカ捕獲効率化による被害の抑制	18	頭	R4 (2022)	20	頭	R5 (2023)	15	75%	R5 (2023)	R6.9.24作業日報より
		抵抗性マツの植栽本数	1,730	本	R4 (2022)	1,500	本	R5 (2023)	816	54%	R5 (2023)	R6.3.25実績報告作成に当たり地方事務所に確認
マーケティング力ある林業担い手の育成	事業全体	素材生産量の向上	306	千m3	R4 (2022)	325	千m3	R5 (2023)	303	93%	R5 (2023)	R5素材生産量調査
	人材の確保・育成・定着	新規就業者数	48	人/年	R4 (2022)	50	人/年	R5 (2023)	46	92%	R5 (2023)	R6.3.31森林・林業振興局調査
	労働安全の確保	労働災害発生件数(減少率)	16	件	R4 (2022)	11 (-31.25%)	件	R5 (2023)	13 (-18.75%)	85% (60%)	R5 (2023)	R6.10.25鳥取労働局HPより
林業経営体の育成	林業経営体育成対策(林業機械リース支援)	素材生産量(目標値)	306	千m3	R4 (2022)	325	千m3	R5 (2023)	303	93%	R5 (2023)	R5素材生産量調査より
		素材生産性(目標値)	5.00	m3/人日	R4 (2022)	5.20	m3/人日	R5 (2023)	5.26	101%	R5 (2023)	

(注)

- 1 全体指標、現状値、目標値、単位については、事業計画の内容とすること。
- 2 達成率は、目標年度の実績/目標値とすること。
- 3 実績については、その調査方法と調査年月日を備考欄に記載すること。(別様可)
- 4 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 5 行については、適宜加除すること。

(2)総合評価

計画主体の評価及び今後の課題とその解決策

目標	本事業により実施した目標の分析とその評価	今後の課題とその解決策
森林資源の保護	<p>森林保全推進員の能力向上及び巡視内容の共通化を目的として研修を実施した。 地方事務所担当職員を対象に研修を実施したのち、地方事務所担当者が森林保全推進員に複数回研修を実施した。 なお、R5年度は目標回数通り研修を実施した。</p>	<p>新規に任命される森林保全推進員もいるため引き続き研修を実施し、推進員の能力向上に努める。</p>
	<p>罾等の見回りに係る省力化・低コスト化を図るため、くくり罾の設置箇所に本事業で購入したICTセンサーを合わせて設置するという新たな取組みを試行し、見回りの省力化を図ることができた。 なお、20頭目標での捕獲を目指していたものの、近年の暖冬化に伴い、鹿の生息域が広域化し、造林地周辺での捕獲頭数も結果的に減少したことで、達成率は75%であった。</p>	<p>造林計画地の奥地化等に伴い、くくり罾及びICTセンサーの設置箇所の柔軟な変更が必要。シカの生息域を注視し、より効果的な箇所での事業を実施することとする。</p>
	<p>鳥取県米子市弓ヶ浜半島の保全松林を松くい虫に強い松林にするため、枯れマツ跡地に松くい虫抵抗性クロマツに植え替えている。目標より、枯れマツを植栽する区域が小さく、達成率は54%となった。</p>	<p>本事業で植栽した松くい虫抵抗性クロマツが順調に生育するよう下刈り等の保育作業を行う。</p>
マーケティング力ある林業担い手の育成	<p>作業班長等を対象とした実践力向上研修の開催、蜂毒や振動障害対策等により担い手の育成・定着に取り組んだ結果、いずれも概ね目標を達成した。</p>	<p>素材生産量の向上には林業担い手の確保・育成が課題である。引続き、現場作業員に対する効果的な研修の開催、労働安全環境の整備等により、担い手の確保・育成に取り組む必要がある。</p>
林業経営体の育成	<p>林業機械を導入したことで作業効率を高めることにつながり、結果、概ね目標を達成することができたと思われる。</p>	<p>概ね目標を達成できたものの、施業地の奥地化への対応が課題であることから、奥地化に対応できる作業システムも検討しつつ、引き続き、林業経営体を育成していくことが必要である。</p>

(注)

- 1 目標ごとに事業評価を分析したうえでその評価について記載するとともに、事業実施上明らかとなった今後の課題とその解決策を記載すること。
- 2 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 3 本表には、目標ごとに評価等を記載すること。
- 4 行については、適宜加除すること。